

<全体分析>

試験時間 2 科目 120 分

解答形式

選択, 記述, 論述

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

問題ページ数は昨年に比べて増加したが, 小問数と論述量が減少した。

知識問題, 考察問題ともに, 全体的な難易度は昨年とあまり変わらなかった。

出題の特徴や昨年との変更点

論述問題が出題の中心となっている。

試験時間に対する問題量が多い。

その他トピックス

大問数が昨年の 2 問から 1 問増加して 3 問となった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	記述 論述	遺伝子 免疫 体内環境 受容器 酵素	生物基礎 生物	問題 1 g) 1) 原核生物のオペロンでは, 1 本の mRNA から複数種類のタンパク質が翻訳されることについて述べてもよいだろう。 問題 1 h) 2) 「mRNA を細胞内に取り込まれやすくする」のような解答でもよいだろう。	標準
2	選択 記述 論述	進化 生態 遺伝子 体内環境	生物基礎 生物	問題 1 e) 1) 「体温を上昇させる」などの内容を解答してもよいだろう。 問題 1 e) 2) 両生類の窒素排出物の排出に関しては, 現行課程の教科書には記載がない。	やや易
3	選択 記述 論述	細胞 体内環境	生物基礎 生物	問題 2 問 3 「のどの渇き」「脱水症状」などを解答してもよいだろう。 問題 2 問 4 細胞の中心付近から細胞膜に向かっての小胞の輸送は, キネシンで行われることが多いが, ダイニンで行われることもある。	やや易

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- 教科書レベルの基本的な知識を, 正確に論述できるようにしておく。
- 試験時間に対する問題量が多いので, 問題演習を重ねて問題文の読解や解答作成の速度を上げておく。